

薬剤耐性（AMR）対策研修会

診療報酬にも抗微生物薬の適正使用が関わり始めています。



- ✓ AMRの現状は？対策の取り組み、方向性とは？
- ✓ 抗菌薬等の抗微生物薬の適正使用とは？
- ✓ 抗微生物薬の処方に悩んだ時の相談先は？

抗菌薬の不適切な使用を背景として、薬剤耐性菌が世界的に増加する一方、新たな抗菌薬の開発は減少傾向にあり、国際的に大きな課題となっています。何も対策を取らない場合（耐性率が現在のペースで増加した場合）、2050年には世界で1,000万人の死亡が想定される（現在のがんによる死亡者数を超える）とも言われています。

こうしたことから、平成27年のWHO総会でAMRに対するグローバルアクションプランが採択され、我が国においても「薬剤耐性（AMR）対策アクションプラン（2016-2020）」が平成28年にとりまとめられ、とりわけ、抗微生物薬の適正使用について、薬剤耐性対策として、医療に関わる全ての者が対応すべき最重要分野の一つとされています。

2018年の診療報酬改定において、外来における抗菌薬適正使用の取り組みを評価する加算が新設され、小児抗菌薬適正使用支援加算や、地域包括診療料等について抗菌薬適正使用普及啓発の取組が要件化されましたが、今年10月の中医協総会において、厚労省から「（加算という形ではなく）別途、診療報酬の項目として考えることも出来る」という発言があり、今後、抗微生物薬の適正使用は診療報酬にも大いに関わってくることが予想されます。AMRについては、今後、感染症分野の最重要課題になるとも言われています。ぜひ、本研修会にご参加ください。

- 日時 令和2年1月27日（月） 19時半～21時
- 場所 出雲医師会館 大ホール（出雲市塩冶有原町2-19-3）
- 主催 島根県出雲保健所
- 共催 島根県院内感染制御ネットワーク
- 内容
 - ・薬剤耐性（AMR）の現状と対応
 - ・医療機関における抗微生物薬の適正使用について
各論編「呼吸器」「尿路感染症」
 - ・島根県院内感染制御ネットワークについて
- 講師 島根県立中央病院 感染症科部長 中村嗣医師
島根大学医学部附属病院 院内感染対策チームリーダー 佐野千晶医師

※本研修会は「島根県医師会生涯教育講座」指定申請中です。

※申込みは令和2年1月15日（水）までに、別紙参加申込票により、FAXまたは郵送にて出雲保健所に送付願います。

＜問い合わせ＞島根県出雲保健所 衛生指導課 担当：三輪
電話：0853-21-1185